

雑誌「工業教育」: 3月号に記事掲載

全国工業高校長協会編集の隔月発行『工業教育』3月号特集「環境・エネルギーを考える」に、自由が丘の取り組みが掲載されます。

以前、北海道環境教育学会に当方の活動を発表した縁もあり、この度依頼されて大塚が原稿執筆しました。本冊はB5版約100ページで機械・電気等の工業専門的内容の全国的実践が中心のもの。

今回は特集記事の一つとして4ページにわたり約2千字ペースに、表題『エコハウス(スクール)』をめざす取り組みと環境教育』+写真4葉にて発信しました。記事の一部を右記囲みにて紹介します。(項目は、1.はじめに、2.自由が丘15年の歩み、3-7.右記、8.今後の課題。*雑誌は各書店にて販売)

■ 訃報: 顧問/山田定市さん、ご逝去 ■

・北大名誉教授/元北大教育学部長を務められ、1995年以來のご支援を頂きました。創立期北海道自由が丘学園運動の発起人のお一人です。

・初期の普及講演会パネラーやゲスト授業でもお世話になりました。私事ですぐさっぽろ時代にも縁を頂きました。謹んでご冥福をお祈りします。

(顧問では、昨年の故大久保尚孝・神山桂一さんに続く訃報となり寂しさを感じます。次世代がしっかりと受け継がねば…と思います)

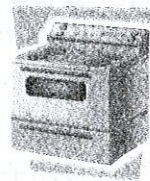
3 「エコハウス」をめざす基本方向

地球温暖化問題は、人類の世界的課題であるだけでなく、人間一人ひとり=ライフスタイルのあり方や努力が問われるものでもある。京都会議以降の世界の二酸化炭素削減目標を達成するためには日本も抜本的展開が必要であり、特に自然エネルギーの積極的導入はその大きなかぎとなる。平成23年(2011)の東日本大震災・福島原発事故は、日本はもちろん世界各国に環境保全とこれからのエネルギーのあり方を鋭く問うものであり、この流れを更に加速することが求められている。

北海道自由が丘学園は、「資源は過去&未来からの預かりもの」、「今の環境行動は、未来人=子ども達への贈り物」、「自然と調和・共生する、持続・循環型のライフスタイル」という三つのキーワードをもとに、『学ぶ: データ蓄積・分析、省エネ学習と企画、他地域・団体の見学・交流』、『実践: エコ行動、食と結合した農業実習や自然体験、追加導入』、『普及: 公開集会・市民講座の企画・運営、ホームページ紹介』の三つの柱でさまざまな取り組みを行ってきた。(中略。以下、見出し)

- 4 ペレットストーブの導入
- 5 ソーラーパネルの設置
- 6 太陽光発電4年間の実績
- 7 月寒スクールの環境教育実践

(1) 地球に生きる科、(2) 環境教育に関係する他教科



[表紙から続く]

「自然の奥深さと原発問題」

田中 実

道内にある支笏湖、屈斜路湖、阿寒湖、然別湖など、みな3~4万年前の火山活動に伴ってできたもので、今日の景観と大きく異なる。それ以前に存在した湖は11万年前の洞爺湖くらいで、洞爺火山の噴出時には火砕流が泊原発付近の日本海まで到達していた。

地表部だけの变化ではない、道内ではこの100年間、平均すると5年に1度は、震度5以上の強震がどこかで発生している。また地震発生の原因となる主要活断層が8本あり、小さなもののほか未発見のものも含めるとその影響は計り知れない。5万年前の大地震の際、手稲山の北斜面が山体崩壊し、幅2km、奥行き6.5kmに及ぶ岩屑なだれが発生した。

人類が誕生し、アフリカ大陸を出発したのが5~8万年前である。道内に人間がやって来たのは2万年前である。それ以前の時代にはマンモス象やナウマン象がいた北海道があった。2万年から12.5万年前のことである。

これまでの10万年間の歴史には、現在の人間が予想できない多様な自然のすがたがあった。今後10万年間にどのような自然が展開され、人間はどんな自然と出会うのか、予測など全くついていない。ましてや10万年間の高レベル廃棄物の管理などと軽々しく言えるものではない。

人間教育とは何かを考えるとき、こうした視点も含まれるのではないかと考えている。

大学生の教育実習: 札幌学院大学・富田研究室の出前授業&食育より

恒例の1月企画。3学期第1週に富田教授+学生8名による授業: 食育・昼食を兼ねたちゃんちゃん焼き料理・アイヌの言葉を知る授業を行いました。1日のみの実習は生徒も緊張しながらでしたが、お互いに得るものはありました。学生さんのレポートを紹介します。(一部要約)

◆◆ 小学生に教える… ◆◆

フリースクールという未知な場所での実習。当初生徒との距離感はどうに取れば良いのか不安だった。しかし普段通り接することで何の問題もなく調理や午後の講義も順調に進めることができてよかった。小学生に教えるという点は、今までに経験したことがなかったので当初は戸惑った。また幅広い年齢、違った性格の子どもたちが、同じ単元目標を定め一緒に教室で授業していくことの難しさも感じた。

また、学びに対する意識や意欲の高さ。調理実習と参加型授業だけでなく、アイヌ語の座学をすると決めた際に、最後まで集中して授業ができるのかと考えていたが、しっかり参加してもらえ。特に小学生ながらに、学生の手も借りつつ板書をプリントに移す姿に驚いた。一般の学校という環境とはまた少し違った環境で、学習意欲のある子どもたちが集まって活動するというフリースクールは、とても有意義なものであるしもっと増えていくべきものであると感じた。[MR]

◆◆ 子どもの求めることに… ◆◆

初めはなぜスクールに通っているのか分からないくらい、元気いっぱいの子たちだと思いましたが、くっついてきたり、遊びたがっている姿に途中から戸惑ってしまいました。一人一人が抱えている問題はきっと深く、私たちが今回できることはなるべく一緒に遊ぶことだと。それは正しかったのか、子どものためになったのかよくわかりません。

今回の活動を振り返って、子どもが大人に求めていることと、学生が子どものためと思ってしていることがずれている気がしました。子どもの求めること全てに応えることが決して正しいわけではなく、大人のサポートによって子どもが自ら進んで行動するようになってくれることが成長だと思い。まだまだ経験が必要だと思いました。また機会があれば次は少人数で伺えたらと思います。[KS]



◆◆ ちゃんちゃん焼き、交流… ◆◆

北海道の郷土料理の授業者だったのですが、まず感じたことは、生徒の緊張感でした。難なく触れ合っている子もいる中、怖がっている子もいて、やはりこの数の大学生と1対1で話をするのは緊張してしまうものだと痛感しました。

そして、私が驚いたことは、生徒の知識量の多さでした。少し難しい問いかけをだしても、ちゃんと答えにたどり着けるように着実に話を理解してくれ、情報の吸収力のすごさに圧倒されるばかりでした。いざ、ちゃんちゃん焼きを作り始めるとある生徒が私に急接近してきて、2つ作ったのですが、片方はその女の子が鮭をハート型に並べ、味噌で大スキと書いて渡してくれました。素直に喜んだらいいのか、よくわからなかった状況でしたがうれしかったです。

放課後みんなが帰る用意をする中、その子が私ともう一人の手を引っ張るので、少しの間かくれんぼなどをして遊びました。それぞれの子にそれぞれの不登校になる背景があると思うのですが、見え隠れする不登校の原因などを観察できたので、とても充実した内容の濃い一日になりました。[OY]

◆◆ 授業の仕方、教材の工夫… ◆◆

勉強を教えてみて、90分という長い時間イスに座ってくれていたのが嬉しかった。個人的には一人ひとりともう少し関わりたいかったのだが、午前のグループがそれぞれの生徒と打ち解けていたので良かった。

動物などを教えた時はやはり写真を用意しといて良かったと思った。何を教えるか考えたが、実際に教えてみるとやはり時間が過ぎるのが予想以上に早く、飛ばし飛ばしやって。指導方法も考えておけば良かったなど後悔している。生徒から注目を受けるような授業作りをこれから重点を置いて考えていこうと思った。貴重な体験が出来て良かったと思う。[KN]